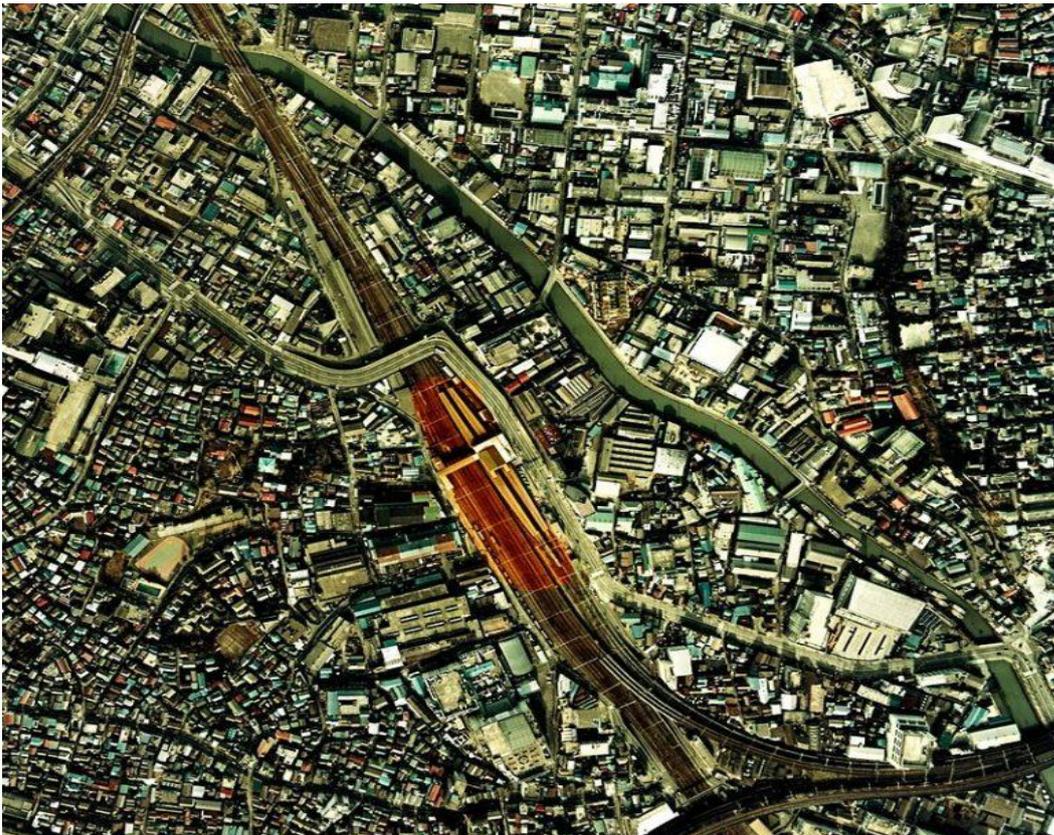


明電舎

山口県出身の重宗芳水が1897(明治30)年、京橋区船松町(現・中央区湊三丁目)で開設した建坪20余の電機工場から始まった。日本初の回転界磁型三相交流発電機や「明電舎モートル」の開発によって、国産モーターの道を拓いた。1913年(大正2)年に大崎の地へ移転。工場も拡大し、株式会社化した重宗は、大崎が工業地として発展する中で、小学校が不足していることを不憫に思い、その寄贈を申し出た。そして重宗が逝去した翌年にあたる1918(大正7)年、「芳水尋常小学校」(現「品川区立芳水小学校」)が創設された。

(三井住友トラスト不動産より)

大崎の歴史にとって明電舎は欠くことはできません。一二三町会の名誉会長であり参議院議長を務めた重宗雄三氏も住んでいた重宗邸は、今の「ひふみ公園」の坂上にあり、「お祭り」や「お相撲大会」など、地域の行事にも積極的に協力をいただきました。航空写真は昭和49年ごろ「芳水小学校もわかりますね」。



1. 明電舎の概要

4/31

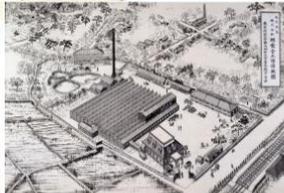
創設当時の大崎工場



大崎工場 落成披露式
1913年(大正4年)

[現在の大崎本社の地]

明電舎の創業は、1897年(明治30年)
「モートルの明電」として礎を築きました。



大崎工場と大崎駅
1914年(大正5年)

